

小中学生版 Vol.17

発行所 〒329-0101
栃木県下都賀郡野木町大字友沼5840-7
野木町社会福祉協議会
(この新聞は共同募金配分金事業で発行されています)
令和4年2月22日発行



みんなかんがで考えるあしきょういく福祉教育

ちいさなあしあしあしあしあしあし

地域福祉新聞



野木町社会福祉協議会では、町内の小・中学校7校を「学童・生徒のボランティア活動普及事業」協力校に指定し、各校の福祉教育担当の先生方と社会福祉協議会、ボランティアの方々と交えて年3回連絡会議を開催しています。

昨年引き続き、コロナ禍においても工夫して行われた各校の福祉に関する取り組み、福祉教育に関わるボランティアの方々の様子などを掲載いたしました。

友沼小学校

友沼小学校では、4年生が「総合的な学習の時間」に福祉の学習をしました。ハンディキャップ体験では「アイマスク体験」「車いす体験」を実施し、ハンディキャップのある方がおかれている状況や、障がいに対する理解を深めることを目標に活動しました。人権学習会では、実際に車いすで生活をしている方にお話をいただきました。1年生は、野木町更生保護女性会の方とチューリップの球根植えを行いました。

チューリップ球根植え



1ねん さかい あつと
チューリップのきゅうこんをうえました。なにいろがさくのかたのしみです。さいたらこんどはいつてくる1ねんせいにみせたいです。

1ねん くだろ みさき
わたしは、きゅうこんをみたことがなかったけれど、たまねぎみたいなかたちでした。なにいろがさくのかたのしみです。

1ねん うえの りんか
チューリップのきゅうこんをうえたとき、土がふわふわしていました。なにいろがさくのかたのしみです。

ハンディキャップ体験

(アイマスク体験)



わたなべ えいた 渡邊 瑛太
最初は暗くて何も見えませんでした。友達の肩を借りても本当の道が分からなかった。障がいを持った人はいつも怖い思いをしているのだと思いました。

まつした りいふ 松下 絆羽

アイマスクを付けて歩いたり、手を洗ったりするのが難しく感じました。相手に道を教えてあげるときに、どこに何があるのか説明することは難しくいろいろな人の気持ちが分かりました。

さとう いぶき 吳藤 聖楓

一人だと何も分からず白杖を使ったり、誰かに道を教えてもらったりして少し分かりました。壁との距離や段差は分からず怖いと感じました。平らな道でも目の見えない人は大変なんだと改めて思いました。今は便利な物も増えてきているけど、思い通りにいかない人も多いと感じました。

かんの ことか 菅野 采楓

車椅子に乗っていると段差がドキドキして怖かったけど、押してくれる人から声を掛けられると安心して乗れました。押してあげるときに気を付けることも分かって今度困っている人がいたら押してあげたいと思います。

いわさわ かづき 岩澤 佳月

車椅子に乗った時に坂道は少し揺れてびっくりした。いつも車椅子に乗っている人の気持ちが分かった。押してあげる時は、車椅子を後ろ向きにするのが難しいと感じた。

おかだ みれい 岡田 望伶

車椅子に乗ってみると一人で進むことや乗り降りができなくて難しかった。体が不自由な人や困っている人がいたら助けて、少しでも楽に生活できるように助けたいと思いました。

(車椅子体験)



人権学習会



1年 せきね るい
車いすのかたのはなしをきいてわかったことは、じぶんで車をうんでんしたりできるということです。また、車いすバスケットができるなんてすごいいました。

2年 青木 陽菜
わたしは、しょうがいをもつ人を何回も見たことがあります。初めて見たのは車いすの人です。車いすの人は、できないことも多いけれど、できることも多いことを初めて知りました。

3年 前田 梨緒奈
話を聞く前は車いすにのっている人はたいへんで、できることが少ないと思っていました。話を聞いてからは、町で手伝ってほしいと言われたら助けてあげたいです。

4年 上原 百桃
最初はたいへんそうだなと思う時がありましたが、話を聞いて、出来ることやできないことも、あるのだと思いました。今後、車いすの人がいて話しかけられたら助けてあげたいです。

5年 鈴木 大輔
話を聞く前は、「大丈夫かな」とか「何か助けられないかな」と思っていたけど、今日話を聞いて、ぼくたちと同じで、「自分でできることは自分でやる。車いすの人もふつうの人と同じなんだ。」と見方が変わりました。話してくれたことを町中で生かしていきたいです。

6年 塚田 拓海
今日話を聞いて大変なことだけではなく、うれしいこともたくさんあるんだと再認識しました。車いすの人に話しかけていいのが分からなかったけれど、困った時は車いすの人から声をかけてくれるとのことだったので、助かるなと思いました。

野木小学校

野木小学校では、4年生が「総合的な学習の時間」に福祉の学習をします。ハンディキャップ体験、手話体験、点字体験などを通して「人にやさしい町」について考えていきます。また、本やインターネットで調べたり、自分の家や野木町の施設を調査したりしながら考えをまとめ、「人にやさしい大作戦」として、今の自分にできることを実践する学習に取り組んでいます。

ハンディキャップ体験

アイマスク

初めて「見えない」ということが、どういうことなのか分かりました。真っ暗でよかったので、困っている人がいたらお手伝いしたいです。
みうら いっごう 三浦 一興

普段見えているから、目が見えないことはおそろしいことだと感じました。その経験を、補助するときに生かしたいです。
こばやし そうた 小林 奏太

階段を上って、いきなり床が平らになったとき、とてもびっくりしました。普段なら気にならないところが危険だと分かりました。
かとう えいと 加藤 瑛斗

補助で指示を間違えると、ペアの人がけがをしてしまうので緊張しました。具体的な指示を心がけました。
ふくしま ゆうや 福島 優矢

目が見えない人は、「命がけ」で生活している場面がたくさんあることに気が付きました。上手に情報を伝えて、安心させたいです。
いたがき かんた 板垣 勲太



車いす

車いすに乗って押してもらうのは楽でしたが、自分で操作するのは大変で、手首がいたくなりました。
ほりこし ぎんじろう 堀越 銀次郎

車いすで段差を上がるのが難しかったです。一人で操作するのも、補助するのも、どちらも少しの段差が大変でした。
おくたいら はやと 奥平 勇人

車いすをいつも操作している人は、町の中にたくさんのハンディがあるのに上手に操作していてすごいと思いました。
くりた りおと 栗田 陵叶

足が不自由な人にとって、「車いすはめがねのような物」という言葉が心に残りました。特別な道具ではなく、めがねと同じくらい身近な道具だと思いました。
いとう はるま 伊藤 悠真

「ゆっくり」のつもりでも、車いすに乗っていると速く感じたり、こわいと感じたりしたので気を付けたいです。
いんてい かずき 印出井 一輝

点字体験



点字には種類があって、点字を打つための道具もあることを初めて知りました。ぼくも点字を読めるようになりたいです。
けづか なおき 毛塚 直輝

点字を打つ練習をしていたら自分の名前も打てるようになりました。北野さんに名前を読んでもらったときは、嬉しかったです。
ながさわ ももか 長澤 百夏

目が見えない方は、点字を覚えるのに何年くらいかかるんだろうと思いました。目が見えない生活についてもっと考えてみたいです。
いわなみ とらのすけ 岩波 虎ノ介

私も点字を覚えることができれば、目の不自由な人たちとちょっと関わることができると思いました。
さいとう はな 斎藤 英菜

身の回りに点字があったら、それを読めるように、タブレットや本などを使って調べてみようと思いました。
ちく ふみや 知久 文哉

目が見えないといつもの生活が大変なので、「目を大切に」という北野さんの言葉をしっかり守っていこうと思いました。
かとう こはる 加藤 心陽

手話体験



見たことのある手話もありましたが、見たことのない手話でも動きを見ていけば理解できました。手話で話すのは面白いです。
おざわ ゆづき 小澤 柚月

手の動きだけで話すので、ちょっとしたところで間違えてしまうのが難しいと思いました。
あきはら りん 栗原 琉生

数字の中で一番難しいと思ったのは「8」の手話です。もし、聴覚が不自由な人がいたら手話でお話できるようにしたいなと思いました。
まきの るな 牧野 琉花

耳の聞こえが悪い人にとっては、手話は、大事なことを「速く伝える」ための手段なんだなと思いました。
せきざわ まさひろ 関澤 正弘

歴史的な人物が苗字を表す手話になっていたりと、滝や川などの動きを表したり、いろんな種類の手話があると知り、勉強になりました。
かわた はると 川田 悠翔



佐川野 小学校

佐川野小学校では、地域の方々やボランティアの方々にご協力いただきながら、農園活動をしています。食農教育を通して、協力して働くことの大切さや苦勞して育てた野菜を共に味わう喜びを感じることができました。

また、人権週間で友達の良いところを見つけをしたり、人権に関するビデオを見たりして、お互いのよさを認め合うことができました。

チューリップのきゅうこんをうえたよ

1年 大竹 滯翔

ぼくは、ボランティアの人におしえてもらって、チューリップのきゅうこんをうえました。みんなでうえたので、うれしかったです。がんばってうえたので、はやくきれいにさいてほしいなとおもいます。はるになるのがたのしみです。



良いところを見つけをしたよ

3年 尾花 紗雪

わたしは、「友だちの良いところを見つけ」をしました。良いところをたくさん見つけるぞという気持ちでしたら、たくさん見つけることができました。クラスの友だちからもらったわたしの良いところカードにも、良いところがたくさん書かれていて、とてもうれしかったです。

これからも、友だちの良いところを見つけて仲良く過ごしたいです。



舘野さんに教わった米作り

5年 小泉 昂也

今年も田植えと稲刈りを舘野さんに教えていただきました。舘野さんは、やり方をていねいに教えてください、ぼくたちの質問にも詳しく教えてくださいました。ぼくは、舘野さんが教えてくださったポイントに気を付けながら、一生けん命活動しました。収穫祭では、育てたもち米で作ったお赤飯を食べました。心を込めて育てたお米はとてもおいしかったです。来年もお米作りをがんばりたいと思います。



人権週間の紙しばいを見たよ

2年 岩崎 創真

「ぼくの気持ち、きみの気持ち」という紙しばいを見ました。けんかをしている二人が入りかわって、おたがいの気持ちを知ってなかよくなるというお話です。友だちとなかよくなるには、相手に悪いことをしたらすぐにあやまってなか直りすることが大切だと思いました。相手の気持ちも自分の気持ちもすっきりするからです。2年生は毎日みんな笑顔です。だから心がすっきりしています。



サツマイモ作りでがんばったこと

4年 揚野 太晴

寶示戸さんは、サツマイモの苗を植えるときから収穫までの育て方のコツをたくさん教えてくださいました。その中で、ぼくが一番大切にできたことは、収穫についてです。スコップを奥まで入れすぎると、サツマイモに傷がついてしまうと教わったので、ていねいにほりました。きれいで大きなサツマイモが収穫できたので、とてもうれしかったです。来年もまたみんなでサツマイモを育てたいです。



トマトの栽培を通して学んだこと

6年 岩崎 暖琉

私たちは今年も学校農園で育てたトマトの販売をJAの直売所で行いました。農業ボランティアの大森さんにトマトの栽培、収穫の仕方などをたくさん教えていただきました。大森さんのアドバイスで、病気の被害も少なく立派なトマトを収穫することができました。それと同時に、大森さんの農業への思いを聞くことができ、今の農業の大変さも学びました。



南赤塚 小学校

南赤塚小では、4年生の総合的な学習の時間「みんなに優しい街づくり」の学習で、本やパソコンなどで、福祉に関する調べ学習をしたり、車いす、アイマスク体験に取り組んだりしています。他にも、人権週間を中心に、福祉・人権に関する学習を全学年で取り組んでいます。

人権週間

今年度は、「同級生は外国人」のビデオを視聴して学習を行いました。自分とは異なる人々と共に暮らすことのよさや、接し方について、理解を深めました。



みんなそれぞれ好きなことや得意なことが違うから、教え合えるし、助け合えると思いました。

1年 岩永 怜奈

人と違うと、今まで知らなかったことを教えてもらって、色々なことを知ることができるようになりました。

1年 齊藤 秋白

みんな違うから、自分が知らないことをたくさん知ることができて、面白い、楽しいと思いました。

1年 長 美志

日本と外国の違うところを教え合うのも面白いと思います。私ももっと外国のことを知りたいです。

2年 村野 柚來

外国人で自分と違う言葉でも、笑顔で話したり、教えてあげたりすれば、友達になれると思いました。

2年 柿沼 陽南乃

人には、それぞれいいところがあり、できることが人それぞれだから、みんなが集まればたくさんできると思いました。

3年 藤野 葉月

人と意見が違うこともあるけれど、違うから教え合えるし、褒め合うこともできて、もっと仲良くなれるんだと思いました。

3年 石井 紬

わたしは、「同級生は外国人」を見て、人はそれぞれできることが違うので、言葉や遊びに違いがあって楽しい生活が送れると思いました。

3年 石崎 佐葉

一人一人いろいろな性格で個性があるのいいところ。文化の違いで分かり合えないときもあるけど、違いを認め合うようにしたいです。

5年 大澤 仁奈

私は、差別をしないで生活したいです。自分と性格などが違ってても、その人と話をして共通点やいいところを探したいです。

5年 吉江 紗也香

人と違うことを前は少しマイナスに感じていたけど、よいところに目を向け、個性として認めることが大切だと思いました。

6年 田村 梨紗

誰もがみんな、生まれた国は違うけど、同じ人間として生まれたのだから、同じように接していこうという気持ちになりました。

6年 山岸 海咲



総合的な学習



車いす体験

私は、最初、車いすは楽しそうだと思っていました。しかし、実際に乗って人に押しってもらうと、坂道や段差のところがかわかったです。操作してみると意外と難しく大変でした。次からは、車いすを使っている人が困っていたら助けたいです。

4年 森 彩夏

ぼくは、車いす体験をして足が不自由な人の気持ちが分かりました。段差や坂道では、手足が不自由な人は、とても苦勞しているのが分かりました。ぼくは、手足が不自由な人が一人だったら、自分から声をかけて助けたいです。

4年 菅谷 蒼希

私は福祉の勉強でアイマスク体験をしました。アイマスクをすると、前が見えなくて階段を上り下りすることがとてもこわかったです。目が不自由な方大変さが少し分かりました。だから、私は目が不自由な人に会ったら、その大変さが少しでも減るように助けたいです。

4年 青木 心和

わたしはアイマスク体験をして、目が見えないと周りが見えないのでとても大変だと思いました。これから、目の不自由な人を街で見かけたら優しく声をかけてあげたいです。そして目の不自由な人が不安な気持ちにならないようにしたいです。

4年 野澤 璃杏



アイマスク体験

認知症サポーター養成講座



認知症の人が困っているときには、厳しくするのではなく、優しく助けてあげることが分かりました。ぼくは、サポーターカードをもらったので、認知症の人にいろいろなサポートをしたいと思います。

4年 遠藤 真司

認知症サポーター養成講座を受けると、認知症の人を応援する気持ちを表すサポーターカードをもらえることが分かりました。わたしももらったので、認知症の人に会ったら、優しく接していきたいです。

4年 舘野 滯南

新橋 小学校

新橋小学校では、地域の学校支援ボランティアの方々に協力を得て、体験学習を充実させています。4年生の総合的な学習の時間で、福祉について学習し、「心のバリアフリー」について考えています。ハンディキャップ体験では、野木町社会福祉協議会、手話サークル「虹の会」、点字会「のぎ」の皆さんやボランティアの方に来校していただき、お話を聞いたり、ふれ合ったり、実際に体験したりしながら、たくさんのことを学ぶことができました。

☆ふれあいウォークラリー☆



11月5日 ふれあいウォークラリーでは、ふれあい班で新橋小学区を歩き、チェックポイントとなる各公園では、班の児童みんなが協力してミッションを達成しました。また、新橋小は「あいさつ日本一」の学校を目指しており、明るくさわやかにあいさつするよう、めあてをもって歩きました。地域の方々に会おうと、進んで元気づけあいさつし、たくさんの笑顔が溢れました。

☆総合『心のバリアフリー』☆

☆ハンディキャップ体験☆

車いすやアイマスクを体験して、福祉について考えました。

(児童の感想)

- 車いすに乗っている人にしか感じられない怖さがあった。
- サポートしてくれる人がいたから心強かった。でもそれだけでは安心できないこともあるので、障がい者のための施設や道具があるのだと思った。
- 点字ブロックの上や道に邪魔になるような物を置かないように気を付けたい。



☆手話・点字体験☆

手話・点字体験では、ボランティアの方から、手話や点字の打ち方などを学びました。

(児童の感想)

- 目が見えないと、話し相手の顔や服装が分からないし、今どこにいるのか場所もはっきり分からないことが分かった。
- 身近なところにも点字があると分かったので、是非見てみたいと思った。
- 手話は、細かく表現しないと伝わらないと思った。手話を使って話したい。
- 障がいがある人がいたら、勇気を出して声を掛けたいと思った。



☆パラスポーツに挑戦☆

「パラリンピックから学ぼう」と題し、パラスポーツについて学習し、パラリンピックには勇気・強い意志・公平・インスピレーションの4つの価値があることや、パラリンピアンがどんな思いで競技に取り組んでいるかなどを学んだ上で、「ゴールボール」を体験しました。

(児童の感想)

- 自分からボールの方に行く勇気が必要だと思った。
- 相手がどこを狙っているか分からないから怖かった。
- 障がいがあってもなくても楽しめるスポーツだと思った。



野木 中学校

野木中では、福祉委員会を中心に毎月行われているアルミ缶・古紙回収を、生徒の家庭のみに限定して行いました。回収量は減りましたが、協力した生徒の割合は増えています。アルミ缶・古紙回収の他に、生徒会執行部とともにベルマーク運動の呼びかけも行いました。本年度も緑の募金を行い、還付金によりたくさんの花の苗を買うことができ、生徒とともに植え付けを行いました。ハンディキャップ体験は、福祉委員のみで行いましたが、今後は他の生徒も体験できるようにしたいです。

『募金活動』

3年 ^{あらい ひずい} 新井 卑翠

野木中学校では、毎年募金活動を行っており、私たち福祉委員が呼びかけて協力をお願いしています。今年は、新型コロナウイルス感染症の影響で募金活動は大変でしたが、より多くの皆さんに協力してもらいました。募金は、多くの人が生活しやすくなるために使われます。つまり、一人一人の協力で世の中がよくなるということです。そのため、僕たち福祉委員は生徒への呼びかけを何度も行い、たくさんの募金を集められるよう頑張っています。先日の「緑の募金」では、送金した一部が校内緑化に使われ、私たちも募金の恩恵を受けています。今後も野木中が一丸となり、募金活動に協力することで社会に貢献していきたいと思っています。

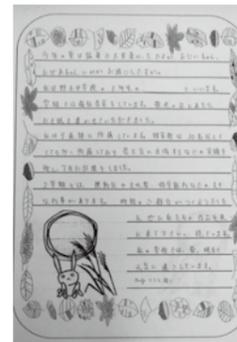


『高齢者への手紙』

3年 ^{さとう ひかり} 佐藤 光湊

私たち福祉委員は、高齢者への手紙を書かせていただきました。今年も去年と同様に、新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の方との交流がありませんでしたが、地域の方とのつながりを実感できる、貴重な交流の機会となりました。

この手紙で、野木中の普段のようすや高齢者の方々への感謝の気持ちを伝えることができました。すると、ご丁寧に何人かの高齢者の方からお礼の手紙をいただきました。その手紙には、たくさんの感謝の言葉が書かれており、受け取った生徒も喜んでいました。今回の手紙のやりとりを通して、この状況下でも感謝を伝えたり交流する方法はたくさんあると気づきました。



『アルミ缶・古紙回収』

3年 ^{とくなが たくま} 徳永 拓真

野木中学校の福祉委員会では、毎月アルミ缶・古紙回収を実施しています。アルミ缶・古紙回収では、アルミ缶や古紙だけでなく、ベルマークや9月からはペットボトルキャップの回収も行っています。しかし、今年度はクラスごとの達成率が低く、大きな課題となっています。また、前年度より回収量が少なくなっているため、福祉委員会では一層の呼びかけが必要不可欠であると感じました。そして、クラスごとの達成率やアルミ缶および古紙の回収量の向上を目指して頑張っています。



『ハンディキャップ体験』

3年 ^{いのうえ ゆあ} 井上 唯愛

私は、ハンディキャップ体験に参加して、改めて色々なことを学びました。車いす体験やアイマスク体験は、これまでに何度か体験したことがありましたが、片麻痺体験は初めてだったので、段差を上がることの大変さから、どのような手伝いをしてあげられるのかわることができました。公民の授業で、「ユニバーサルデザイン」や「バリアフリー」のある施設が大切だと学びました。この体験を通して、これからハンディを抱える人に出会ったら、進んで助けに行きたいと思っています。



野木二中では、輝光祭(学校祭)で「ビックアート」の製作をしています。今年はみんなで応援したパラリンピックが題材になりました。また、海外とのつながりを大切にしたいということで、「NHK海外たすけあい募金」を実施しました。生徒会では、挨拶をもう一度考えようと、「あいさつ向上ワークショップ」を行いました。これからも様々な活動を通して、人とのつながりを大切にしていきたいと思います。

3年 霧林 琉美

野木第二中学校では、毎年アルミ缶を使ったビックアートを製作しており、地域の方々からも親しまれています。

今年は、オリンピック・パラリンピックなどでも掲げられている「多様性の時代」といった観点から、車いすテニスメダリストである国枝慎吾選手をテーマに製作しました。この作品は、アルミ缶回収をみんなでやり、ビックアート係が互いに協力しながら完成しました。

このことから、私たちは助け合い協力することの大切さを学びました。この作品から私たちの気持ちが伝わると嬉しいです。輝光祭の時期には野木二中のビックアートに目を向けてみてください。

ビックアート



あいさつ向上ワークショップ

3年 齋藤 桃柱

私たち野木二中生は、大切なコミュニケーションツールの一つである「あいさつ」を大事にして生活しています。あいさつには、人と人をつないだり、たくさんの人を笑顔にする力があります。

そんなあいさつを見直すきっかけを作るための「あいさつ向上ワークショップ」を行いました。このワークショップは、いくつかのあいさつに関する場面を設定し、生徒が実際に行ってみて自分の気持ちを考えるものです。

このような取り組みなど、積極的に行動をしています。コミュニケーションを取りにくいこんな時代だからこそ、よりあいさつへの意識を高め、誰もが笑顔で過ごせるようにしたいと思っています。そして学校だけでなく地域の人にもあいさつをして、より交流を深めていけるようにしたいと思っています。

最後に質問！

「自分にとって、あいさつをする上で一番大切にしたいことは何ですか？」

NHK海外たすけあい募金

3年 田中 佑奈

NHK海外助け合い募金の活動は、日本赤十字社が中心となって、貧困や病気などで困っている世界中の人々を援助するためのものです。

私たち福祉委員は、金額の集計結果よりも参加人数を重視してこの募金活動を行っています。その結果、募金に協力し役立ててもらおうという気持ちを学校全体で高めることができました。募金は14,613円集まりました。

この活動では、多くの人に参加することに意味があると学ぶことができました。これからも募金に限らず、福祉活動に協力してくれる生徒がもっと増えるように呼びかけていきたいと思っています。



手話サークル「虹の会」

冷水 加代子

聴覚障がい者の方と町中でお会いしても耳が不自由な方と気づくのは難しいかもしれません。しかし聞こえないことで困っていることは沢山あります。

台風の日、大雨の音も聞こえません。夜中、時々窓を開け、様子を見て朝まで眠れなかったこと。この話をお聞きして、手話の勉強だけでなく日常生活の中で聴覚障がい者の方々と交流することがいかに大切かということをつくづく感じました。

虹の会はろう者の方と一緒に手話表現の勉強をしています。手話は顔の表情にプラス、手の強弱、感情を込めて伝えることで、もっと楽しいコミュニケーションが出来ます。

楽しい手話でろう者の方と会話し、手話が通じた時の喜びを体験していただけたら嬉しいです。



手話サークル「野和の会」

活動日：毎週月曜日(午前10時～正午)
場 所：ホープ館(町老人福祉センター)
年会費：1,000円

手話サークル「虹の会」

活動日：毎週土曜日(午前10時～正午)
場 所：ホープ館(町老人福祉センター)
年会費：1,000円

点友会「のぎ」

小杉 邦子



点友会「のぎ」

活動日：第2・4火曜日、第3金曜日
(午前10時～正午)
場 所：ホープ館(町老人福祉センター)
年会費：500円

令和3年度もコロナウイルスまん延でボランティア講座の中止や小中学校での点字体験が大変少なくなりましたが、12月に小学校で学習ができ、児童さん達はとても熱心に点字の打ち方、読み方を学んでもらうことが出来、感謝しています。

「人」という字は一人の「人」がもうひとりの「人」を支え合って成り立っています。

今度は皆さんが学んだ点字や人への心遣いを、点字を知らない人に教えてあげられるといいですね。

行動に移してもらえたら私たちの願いです。

朗読の会「のぎく」

滝澤 智津子

私たちは「目の不自由な方などに、町の配布物を録音してお届けしよう。」を目的に活動をはじめました。

広報のぎ、おしらせ版、議会だより、その他の情報誌などをCDにして郵送しています。

サークル活動も今年で28年目を迎えます。昨年は栃木県社会福祉協議会より、点友会さんとともに会長表彰をいただきました。

他のボランティアさんも同じですが、続けていることが誰かの役に立っているのはうれしいですね。

皆さんもそんな体験が出来ればと思います。



朗読の会「のぎく」

活動日：第1・2・3水曜日、第4金曜日
(午後1時30分～午後4時)
(第1水曜日は午前9時30分～)
場 所：ホープ館(町老人福祉センター)、
図書館 他
年会費：500円

片マヒ疑似体験機材『まなび体』を使用した福祉教育の進め方

野木町社会福祉協議会では、町内の小中学校 7 校を「学童・生徒のボランティア活動普及事業」協力校に指定し、年 3 回の連絡会議を開催しています。また、赤い羽根共同募金の配分金から毎年各校に福祉活動に対する補助を行っています。

今回は会議後に、会議のメンバー以外の先生方にもご出席いただき、新しい疑似体験機材『まなび体』を使用した福祉教育の進め方に関するセミナーを開催しました。

まずは福祉教育を行う目的の再確認と、片麻痺がどのような原因で起きて、どのような変化が身体と心に起きるのかを学習しました。その後実際に先生方に『まなび体』を装着していただき、片麻痺状態での歩行や椅子の立ち座りの体験をしていただきました。

体験していただいた先生からは、「見た目以上に歩行や椅子からの立ち上がりが難しかった」などの感想をいただきました。

野木町社会福祉協議会では、『まなび体』を使用した体験学習のご依頼を受け付けております。学校以外にも企業様や自治会、社会福祉法人などからのご依頼にも対応いたしますので、お気軽にお問合せください。



地域福祉新聞とは？

野木町社会福祉協議会の「地域福祉新聞」の取り組みは、平成 17 年度に栃木県社会福祉協議会から指定を受け始めた事業をきっかけに始まりました。

当時の協力校は野木中学校区の小中学校 4 校でしたが、平成 20 年度からは町内の小中学校 7 校の協力を得て、地域福祉新聞を発行しています。

地域福祉新聞は、各学校ごとに特色のある地域社会と連携した事業の取り組みや福祉について学んだ内容、児童・生徒さんたちの感想を記事として掲載しています。子どもたちがさまざまな体験をとおして得た素直な感想、発見を読んでいただき、今まで福祉に興味があなかった方々にも福祉について考えるきっかけになっていただければと思っています。

『「みんなで考える福祉教育」地域福祉新聞』のタイトルにもあるように、新聞を読んで子どもたちの学びを見守りつつ、どうしたら私たちのふだんの暮らしをよくしていくことが出来るかを、身近な人と一緒に考えてみてください。